

コロナ禍の下における社会的活動の状況についてのアンケート調査

ー参加していた地縁的な活動の再開予定が立っていない人約2割、ボランティア等は約1割ー

大正大学地域構想研究所は、社会的活動^(注)へのコロナ禍の影響を把握するため、インターネット調査を実施しました。その結果、コロナ禍の影響により、大きく影響を受け、参加していた自治会、町内会などの地縁的な活動がほとんど行われなくなった人が約6割、参加していたボランティア・NPO・市民活動がほとんど行われなくなった人が約半数いること、参加していた地縁的な活動の再開の予定が未だ立っていない人が約2割、参加していたボランティア・NPO活動の再開の予定が未だ立っていない人・活動をやめた人が約13%となっていること等が明らかになりました。こうしたコロナ禍による社会的活動の停滞は、地域における支え合い機能や地域の活力の低下にもつながると考えられます。

大正大学地域構想研究所では、地域と連携し、地域における社会的活動に対する人々の参加意欲の向上やソーシャル・ネットワークの活性化に資する取り組みや研究を進め、地域の活力の向上、ひいては持続可能な地域社会の構築に貢献できるよう努力して参りたいと考えています。

(注)本調査で対象とした社会的な活動は、「自治会、町内会などの地縁的な活動」、「ボランティア・NPO・市民活動」、「スポーツ・趣味・娯楽活動」の3つである。

【調査結果概要】

- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、参加していた社会的活動は影響を受けたかと尋ねたところ、「大きく影響を受け、ほとんど(まったく)活動が行われなくなった」割合は、自治会、町内会などの地縁的な活動(以下、「地縁的な活動」)は57.9%で約6割、ボランティア・NPO・市民活動(以下「ボランティア等」)は48.3%でほぼ半数、スポーツ・趣味・娯楽活動(以下「スポーツ・趣味等」)は42.9%であった。コロナ禍により多くの社会的活動が大きな影響を受け、ほとんど(まったく)活動が行われなくなったことがわかった。とりわけ地縁的な活動において影響が大きかった。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、参加していた社会的活動が「大きく影響を受け、ほとんど(まったく)活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど活動が行われなくなったときに活動再開についてどのように感じたか尋ねたところ、「早く活動を再開してほしいと感じた」割合は、地縁的な活動は20.3%、ボランティア等は31.4%、スポーツ・趣味等は36.6%であった。一方、「活動を再開してほしいと感じなかった・活動を再開したいと感じなかった」割合は、地縁的な活動は25.3%、ボランティア等は9.0%、スポーツ・趣味等は8.7%であった。

- 参加していた社会的活動が「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど（まったく）活動が行われなくなったことがあなたの生活の満足度に与えた影響について尋ねたところ、「生活の満足度を下げた」割合は、地縁的な活動は 29.6%、ボランティア等は 47.3%、スポーツ・趣味等は 60.9%であった。他方、「生活の満足度に影響を与えなかった」割合は、地縁的な活動は 63.1%、ボランティア等は 49.5%、スポーツ・趣味等は 37.9%であった。
- 参加していた社会的活動が「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、今後の活動の見込みを尋ねたところ、「活動再開の予定は立っていない」割合は、地縁的な活動は 31.9%で約 3 割、ボランティア等は 20.7%、スポーツ・趣味等は 20.5%であった。「元の活動の一部のみ行う予定」割合は、地縁的な活動は 23.2%、ボランティア等は 20.2%、スポーツ・趣味等は 13.7%であった。「活動をやめた」割合は、ボランティア等は 6.9%、スポーツ・趣味等は 5.6%であった。コロナ禍前より社会的活動に参加していた人全体からみると、参加していた社会的活動の再開の予定は立っていない或いは参加をやめた割合は、地縁的な活動では約 2 割、ボランティア等では約 13%、スポーツ・趣味等では約 1 割であった。多くの社会的活動がコロナ禍により大きな影響を受け、参加していた活動が未だ再開の予定が立っていない人や活動が縮小された人、活動をやめた人も多いことがわかった。再開の予定が立っていない割合においても、特に地縁的な活動が多く、この点でもとりわけ地縁的な活動が大きくダメージを受けていることがわかった。
- 参加していた社会的活動が「影響を受けたが、何とか活動が継続された」と回答した人に、活動を継続する際に講じた措置を複数回答で尋ねたところ、地縁的な活動では、「飲食や懇親会だけやめて活動を継続」(46.1%)が最も多く、続いて「イベントなどの規模を縮小して活動を継続」(42.9%)、「活動の回数を減らし活動を継続」(42.5%)が多かった。ボランティア等では、「イベントなどの規模を縮小して活動を継続」(43.8%)が最多で、次いで、「十分な感染防止対策を施して活動を継続」(40.3%)が続いた。スポーツ・趣味等では、「十分な感染防止対策を施して活動を継続」(63.4%)が最も多く、「活動の回数を減らし活動を継続」(47.6%)が続いた。社会的活動の継続のために様々な措置が並行して講じられていることがわかった。
- 今後も現在住んでいる地域に住み続けたいかと尋ねたところ、「今後も現在住んでいる地域に住み続けたい」割合は、地縁的な活動に参加している人(71.3%)の方が参加していない人(52.6%)よりも約 2 割多かった。本調査の結果から明らかになった、コロナ禍の影響による地縁的な活動の停滞が地域への定住にも影響を及ぼすおそれがある。

【調査概要】

- ・調査目的:コロナ禍が社会的活動に及ぼした影響について把握すること
- ・調査対象:コロナ禍前に「自治会、町内会などの地縁的な活動」、「ボランティア・NPO・市民活動」のいずれか、或いは両方に参加していた(現在も継続している場合も含む)、全国に住んでいる20代以上
- ・回収サンプル数:864人(男性430人、女性434人)
- ・調査時期:2021年12月
- ・調査方法:インターネット調査(NTTコムオンライン・マーケティング・ソリューション(株)委託)

【本調査についての照会先】

大正大学地域構想研究所地域の支え手プロジェクト事務局

塚崎裕子・山本恭久

(電話) 03(5944)5482

(ファックス) 03(5934)3055

【調査結果】

1. 調査対象者

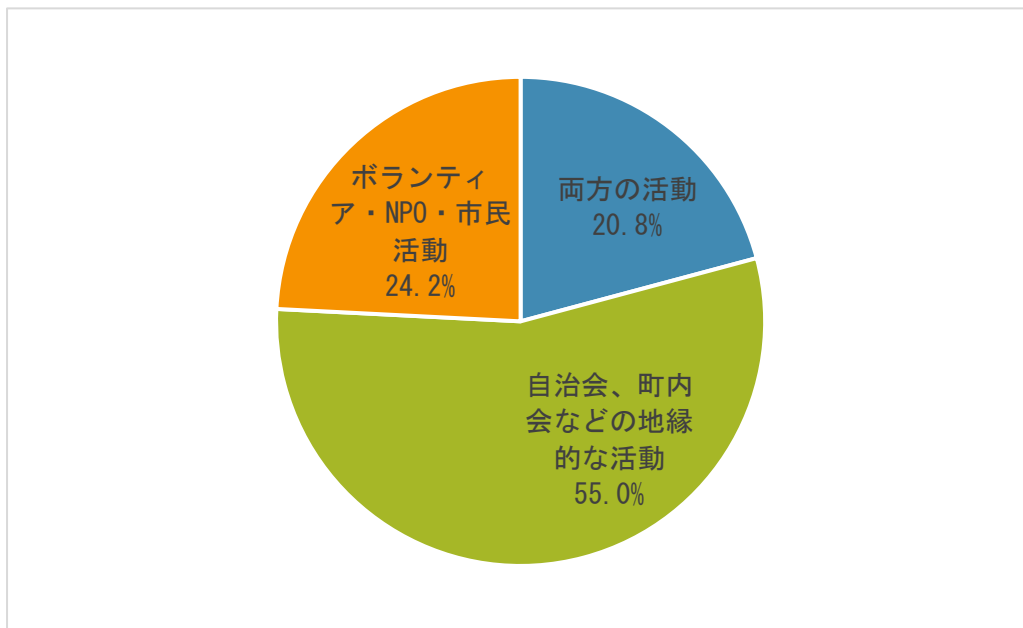
本調査の対象者は、コロナ禍前に次の活動のいずれか、或いは両方に参加していた、全国に住んでいる20代以上とした。但し、現在もこれらの活動を継続している場合も対象としている。

- ・自治会、町内会などの地縁的な活動（自治会、町内会、婦人会、老人会、青年団、子供会、消防団など）
- ・ボランティア・NPO・市民活動（まちづくり、高齢者・障害者福祉や子育て、スポーツ指導、美化、防犯・防災、環境、国際協力活動など）

「自治会、町内会などの地縁的な活動」と「ボランティア・NPO・市民活動」の両方の活動を行っている人の割合は20.8%、「自治会、町内会などの地縁的な活動」のみを行っている人の割合は55.0%、「ボランティア・NPO・市民活動」のみを行っている人の割合は24.2%であった。（図1）

本調査では、調査対象とする条件とはしていないが、「スポーツ・趣味・娯楽活動（各種スポーツ、芸術文化活動、生涯学習など）」についても質問を行っている。スポーツ・趣味・娯楽活動を行っている人の割合は全体の43.4%であった。

図1 調査対象者

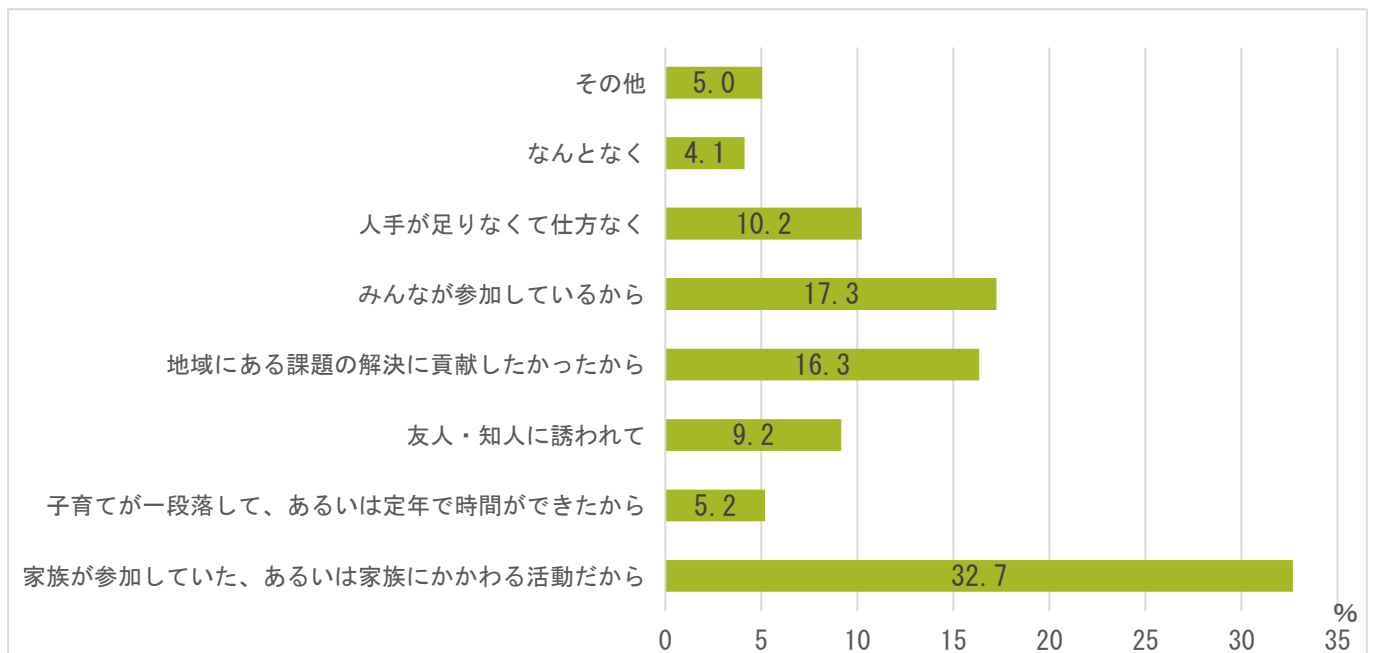


2. コロナ禍の下における自治会、町内会などの地縁的な活動

(1) 自治会、町内会などの地縁的な活動に参加したきっかけ、参加頻度

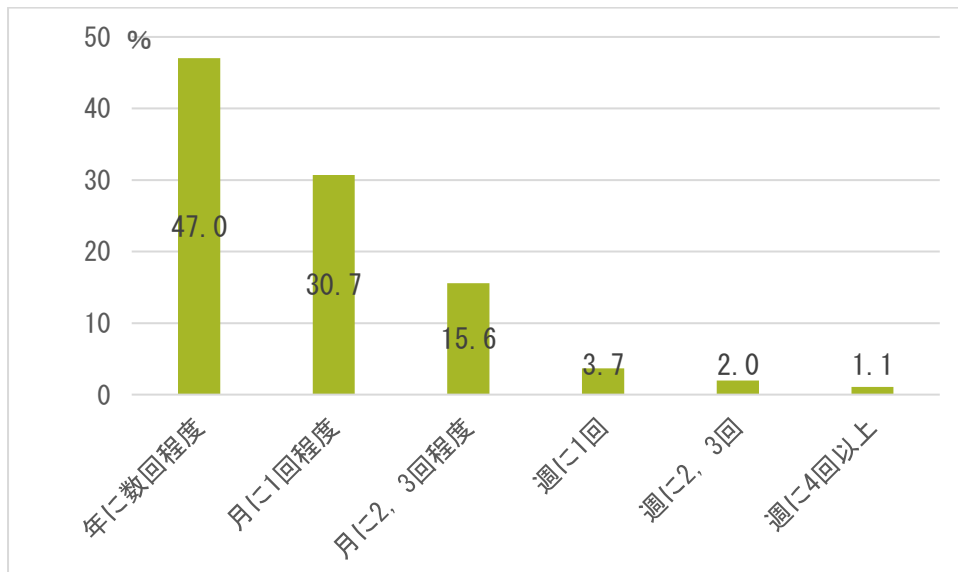
自治会、町内会などの地縁的な活動に参加したきっかけとして、最も当てはまるものを1つだけ選んでもらったところ、「家族が参加していた、或いは家族にかかわる活動だから」(32.7%)が圧倒的に多かった。次いで、「みんなが参加しているから」(17.3%)、「地域にある課題の解決に貢献したかったから」(16.3%)が続いた。なお、複数の活動に参加していた場合は、最も頻度が多かった活動について回答を求めた(以下の設問において同じ)。(図2)

図2 自治会、町内会などの地縁的な活動に参加したきっかけ



コロナ禍前、自治会、町内会などの地縁的な活動に参加していた頻度は、「年に数回程度」が47.0%、「月に1回程度」(30.7%)、「月に2、3回程度」(15.6%)の順で多くなっている。月に1回程度以下の参加頻度が約8割を占めている。(図3)

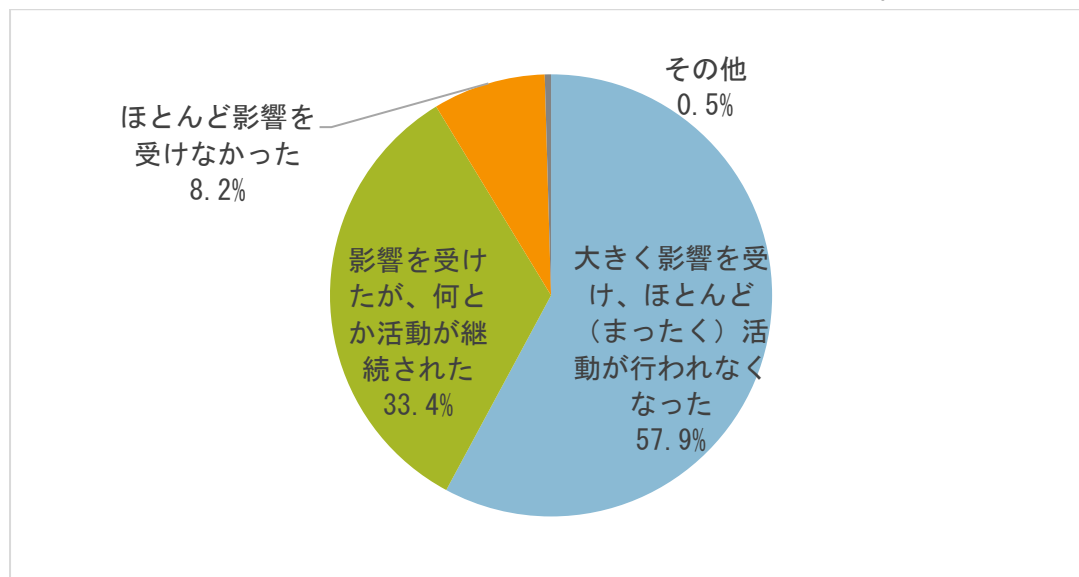
図3 コロナ禍前の自治会、町内会などの地縁的な活動の参加頻度



(2) 自治会、町内会などの地縁的な活動へのコロナ禍の影響

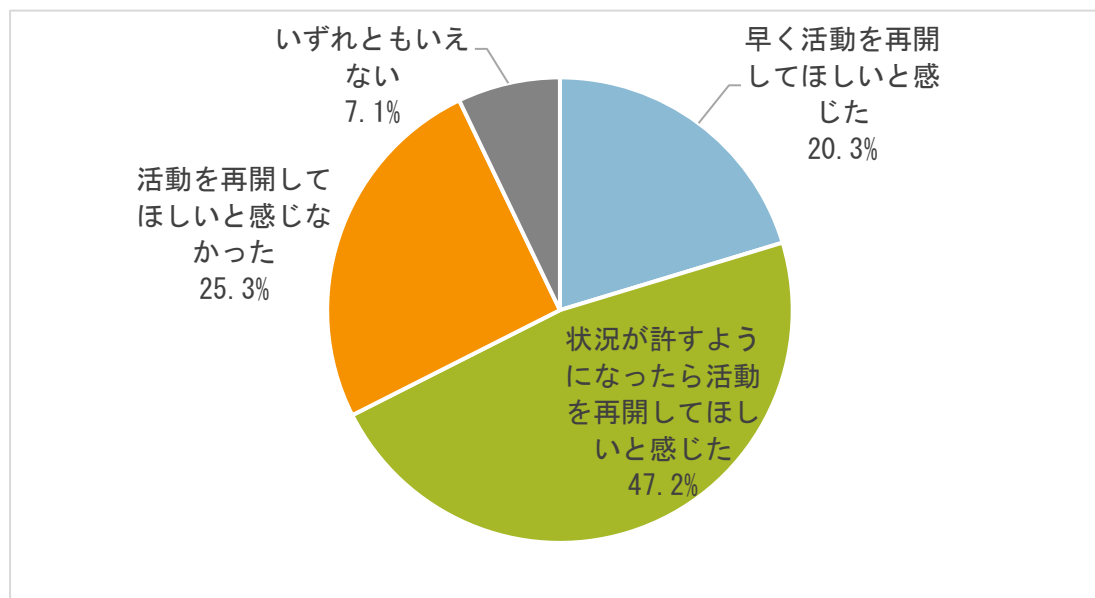
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、自治会、町内会などの地縁的な活動は影響を受けたかという質問に対する回答として、最も多かった回答が「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動が行われなくなった」(57.9%)で約6割を占めた。次いで、「影響を受けたが、何とか活動が継続された」(33.4%)が約3分の1、「ほとんど影響を受けなかった」(8.2%)は1割以下であった。コロナ禍前に地縁的な活動に参加していた人の9割以上がコロナ禍の影響を受け、そのうちの約3分の2が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなったことがわかった。(図4)

図4 自治会、町内会などの地縁的な活動へのコロナ禍の影響



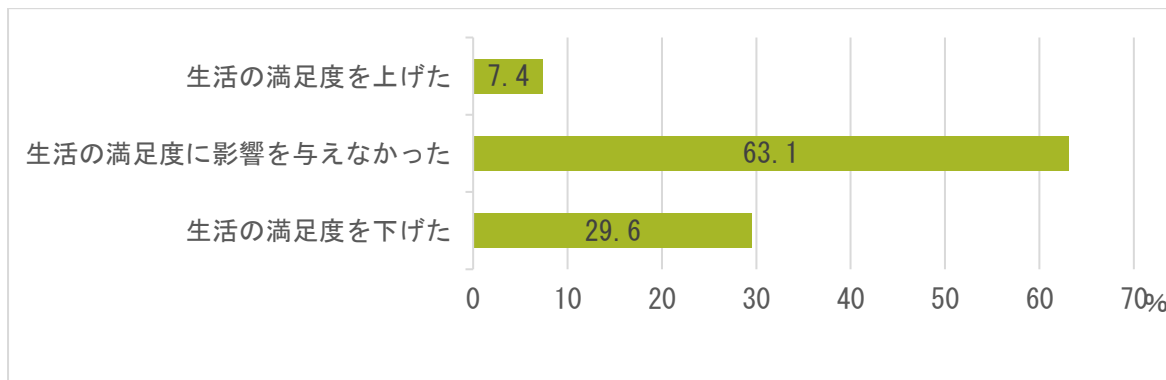
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど活動が行われなくなったときに活動再開についてどのように感じたか尋ねたところ、「状況が許すようになったら活動を再開してほしいと感じた」(47.2%)が最も多く、ほぼ半数を占め、次に「活動を再開してほしいと感じなかった」(25.3%)、「早く活動を再開してほしいと感じた」(20.3%)が続いた。(図5)

図5 自治会、町内会などの地縁的な活動の再開に対する思い



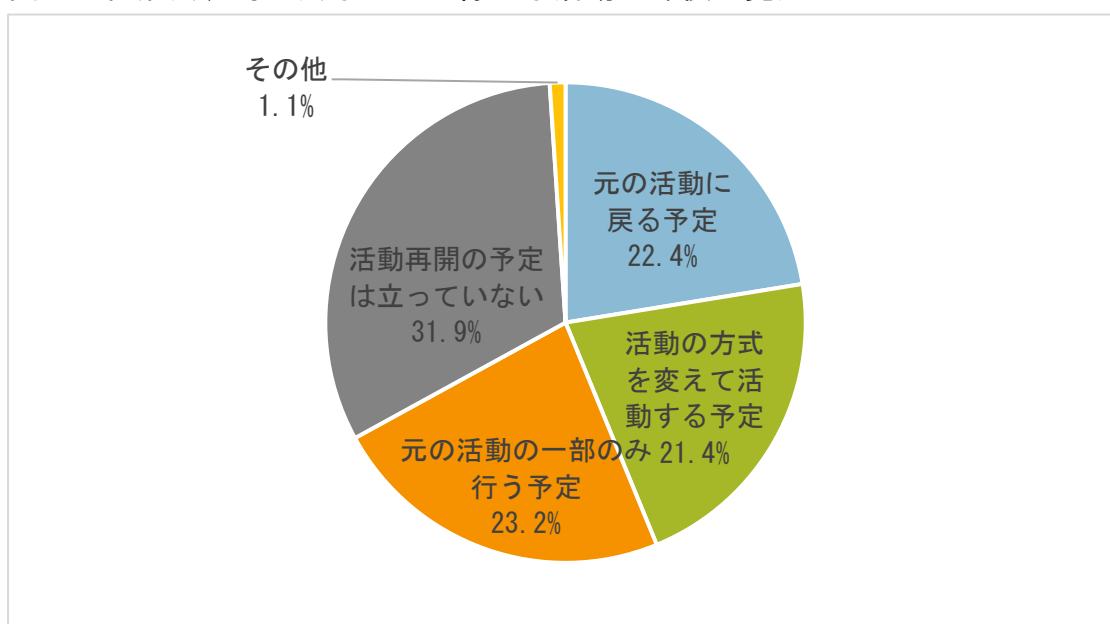
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど（まったく）活動が行われなくなったことがあなたの生活の満足度に与えた影響について尋ねたところ、「生活の満足度に影響を与えなかった」（63.1%）が最多で、次いで「生活の満足度を下げた」（29.6%）、「生活の満足度を上げた」（7.4%）が続いた。「生活の満足度を下げた」とする人が「生活の満足度に影響を与えなかった」とする人の約半分であった。（図6）

図6 自治会、町内会などの地縁的な活動が行われなくなったことが生活の満足度に与えた影響



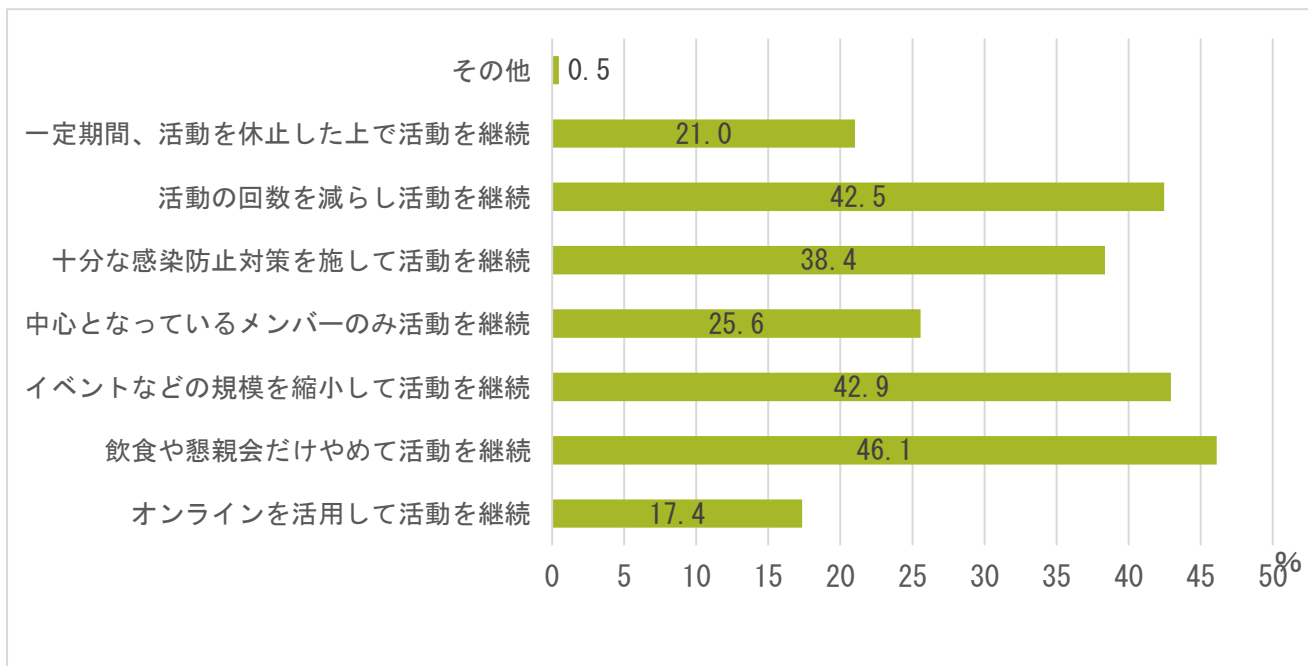
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、今後の活動の見込みを尋ねたところ、「活動再開の予定は立っていない」（31.9%）が最多で、次いで「元の活動の一部のみ行う予定」（23.2%）、「元の活動に戻る予定」（22.4%）、「活動の方式を変えて活動する予定」（21.4%）がそれぞれほぼ2割が続いた。コロナ禍前に地縁的な活動に参加していた人の約6割が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなり、そのうちの約3割が参加していた活動の再開の予定が立っていない、約2割が活動を縮小する予定であった。即ち、コロナ禍前より地縁的な活動に参加していた人のうち、約2割は参加していた地縁的な活動の再開の予定は立っていないこと、約15%は参加していた地縁的な活動が縮小される予定であることがわかった。（図7）

図7 自治会、町内会などの地縁的な活動の今後の見込み



「影響を受けたが、何とか活動が継続された」と回答した人に、活動を継続する際に講じた措置を複数回答で尋ねたところ、「飲食や懇親会だけやめて活動を継続」(46.1%)が最も多く、続いて、「イベントなどの規模を縮小して活動を継続」(42.9%)、「活動の回数を減らし活動を継続」(42.5%)、「十分な感染防止対策を施して活動を継続」(38.4%)、「中心となっているメンバーのみ活動を継続」(25.6%)が多かった。地縁的な活動の継続のために様々な措置が並行して講じられていることがわかった。(図8)

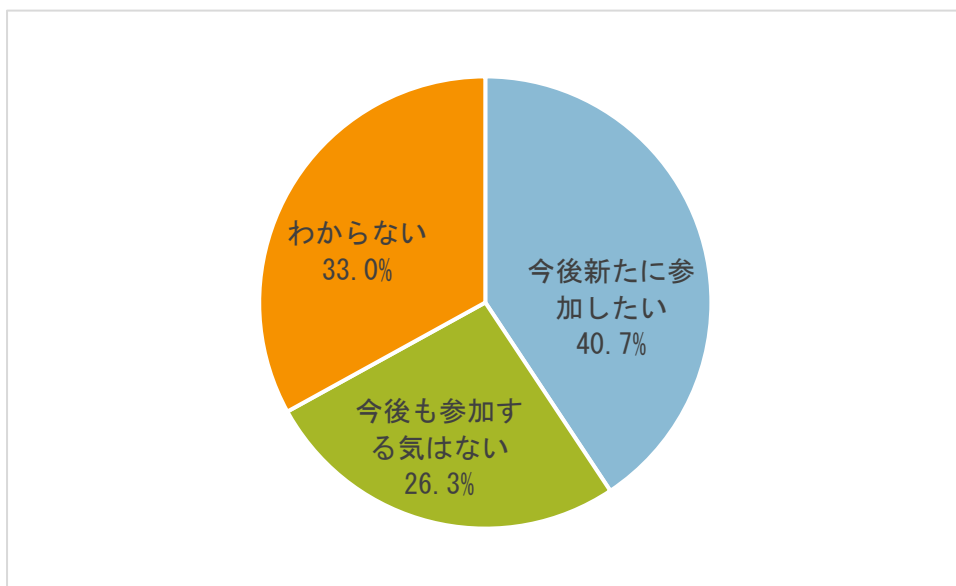
図8 自治会、町内会などの地縁的な活動の継続のために講じた措置



(3) コロナ禍前から地縁的な活動を行っていない人の今後の参加の希望

コロナ禍前から自治会、町内会などの地縁的な活動を行っていない人に今後の参加の希望を尋ねたところ、「今後新たに参加したい」(40.7%)が約4割で最も多く、「わからない」(33.0%)、「今後も参加する気はない」(26.3%)が続いた。(図9)

図9 コロナ禍前から自治会、町内会などの地縁的な活動を行っていない人の今後の参加の希望

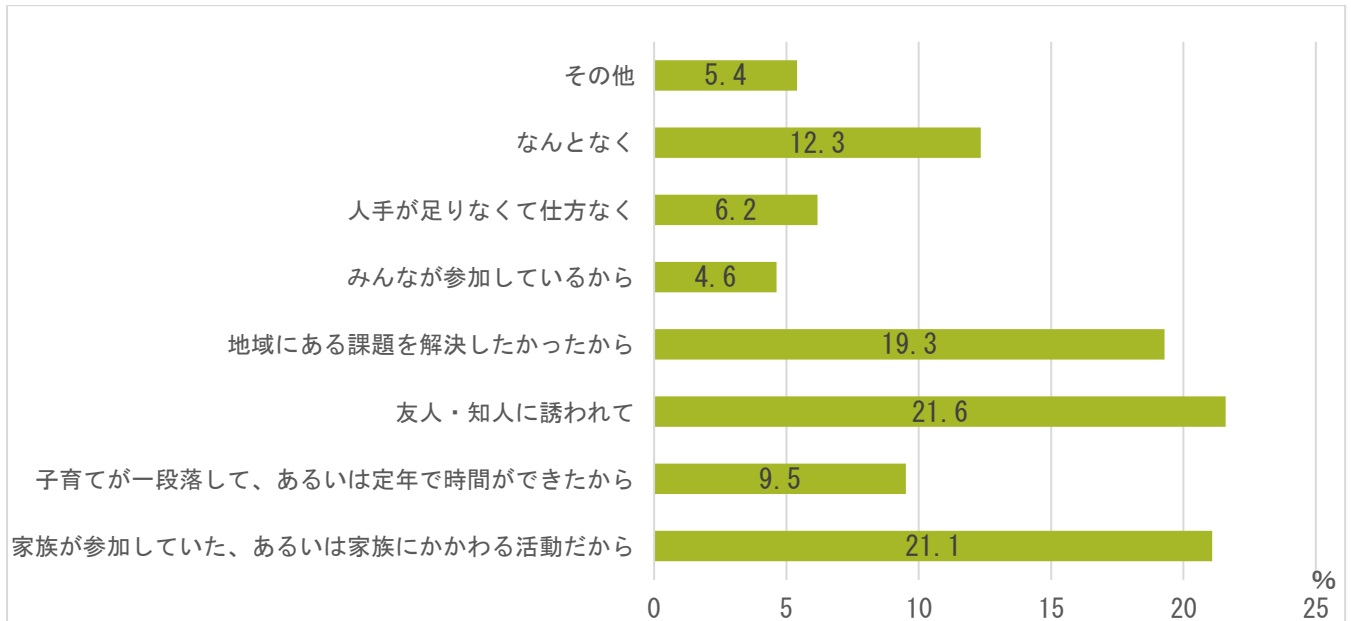


3. コロナ禍の下におけるボランティア・NPO・市民活動

(1) ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけ、活動地域、参加頻度

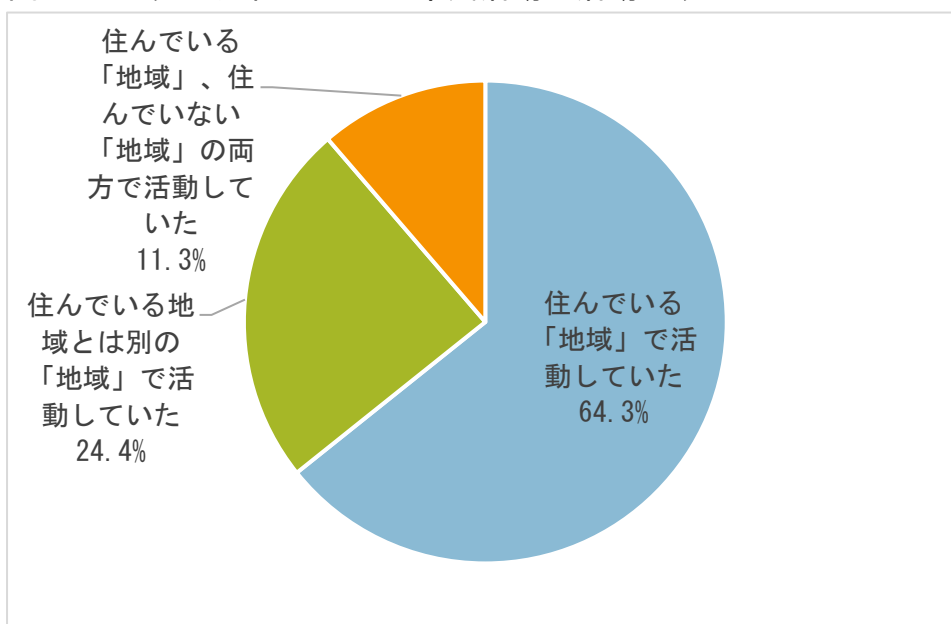
ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけとして、最も当てはまるものを1つだけ選んでもらったところ、「友人・知人に誘われて」(21.6%)、「家族が参加していた、或いは家族にかかわる活動だから」(21.1%)、「地域にある課題の解決に貢献したかったから」(19.3%)がそれぞれ約2割で多かった。(図10)

図10 ボランティア・NPO・市民活動に参加したきっかけ



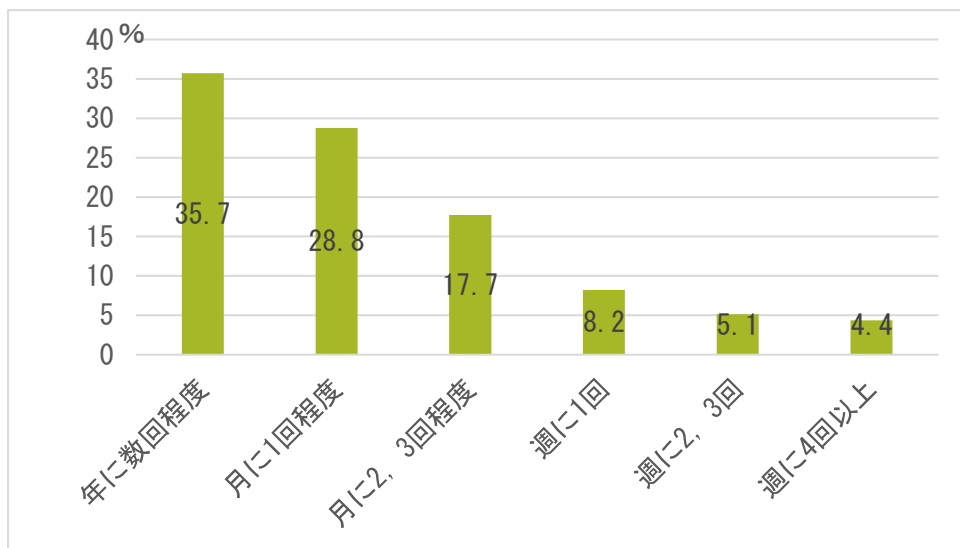
ボランティア・NPO・市民活動の活動地域について尋ねたところ、「住んでいる『地域』で活動していた」(64.3%)が最多で、「住んでいる地域とは別の『地域』で活動していた」(24.4%)、「住んでいる『地域』、住んでいない『地域』の両方で活動していた」(11.3%)が続いた。(図11)

図11 ボランティア・NPO・市民活動の活動地域



コロナ禍前、ボランティア・NPO・市民活動に参加していた頻度は、「年に数回程度」が最多で35.7%、次いで「月に1回程度」(28.8%)、「月に2、3回程度」(17.7%)が多かった。月に1回程度以下の参加頻度が6割以上を占めている。(図12)

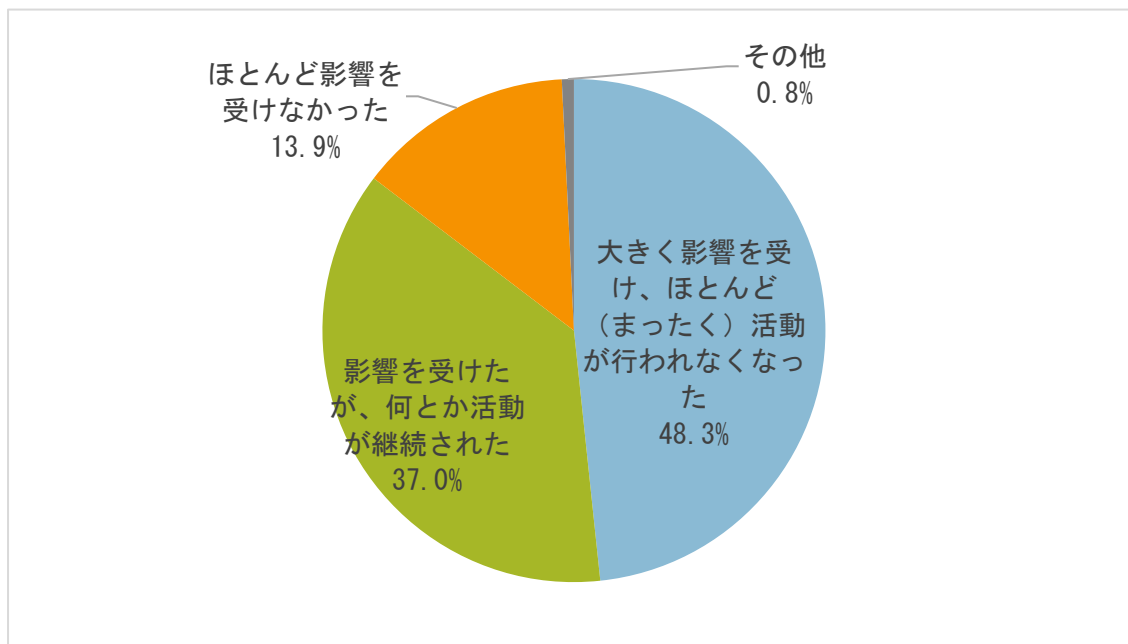
図12 コロナ禍前のボランティア・NPO・市民活動の参加頻度



(2) ボランティア・NPO・市民活動へのコロナ禍の影響

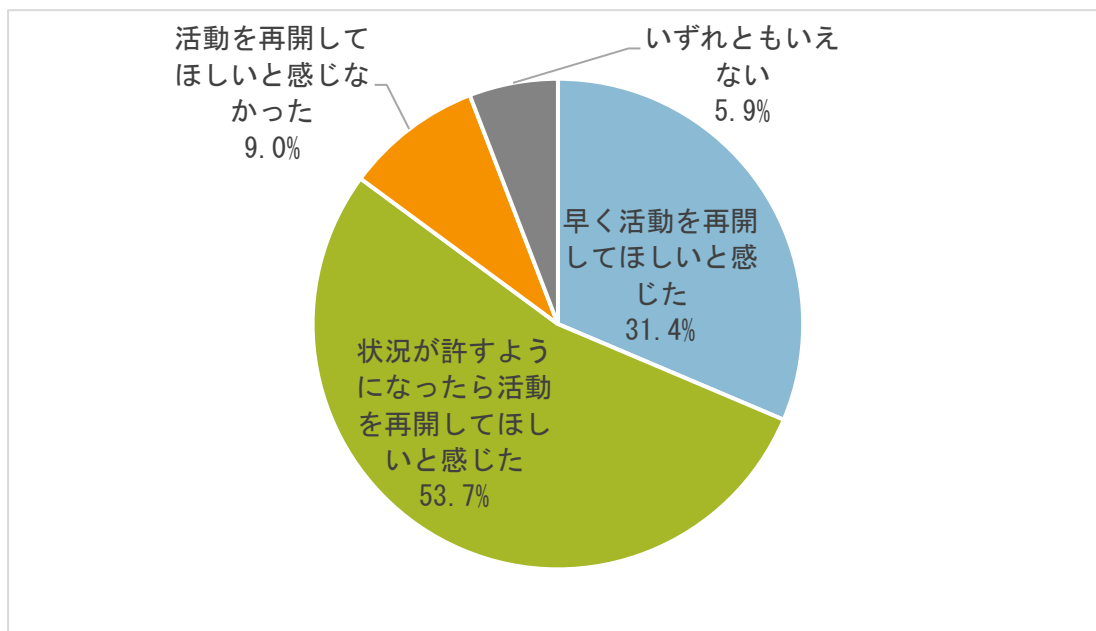
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、ボランティア・NPO・市民活動は影響を受けたかという質問に対する回答として、最も多かった回答が「大きく影響を受け、ほとんど(まったく)活動が行われなくなった」(48.3%)でほぼ半数を占めた。次いで、「影響を受けたが、何とか活動が継続された」(37.0%)、「ほとんど影響を受けなかった」(13.9%)が続いた。コロナ禍前にボランティア・NPO・市民活動に参加していた人の約9割がコロナ禍の影響を受け、そのうちの約6割が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなったことがわかった。(図13)

図13 コロナ禍のボランティア・NPO・市民活動への影響



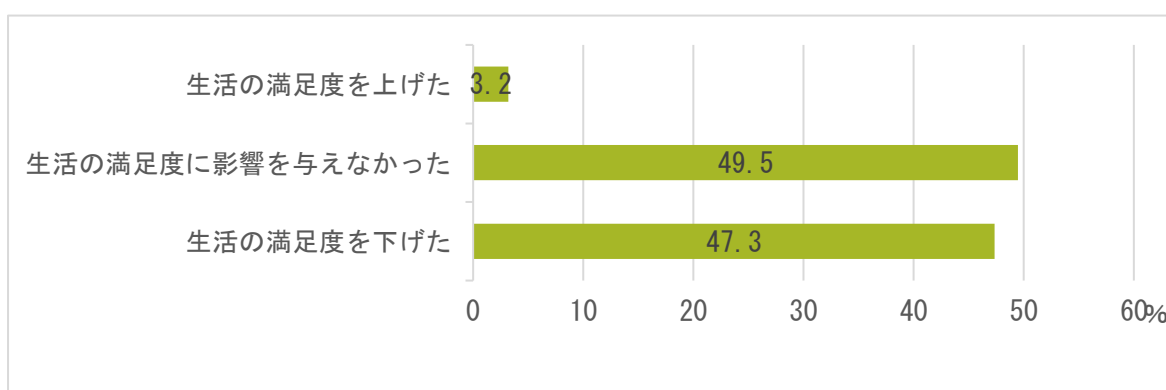
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど活動が行われなくなったときに活動再開についてどのように感じたか尋ねたところ、「状況が許すようになったら活動を再開してほしいと感じた」（53.7%）が最も多く、次に、「早く活動を再開してほしいと感じた」（31.4%）が多く、「活動を再開してほしいと感じなかった」（9.0%）は1割以下であった。（図14）

図14 ボランティア・NPO・市民活動の再開に対する思い



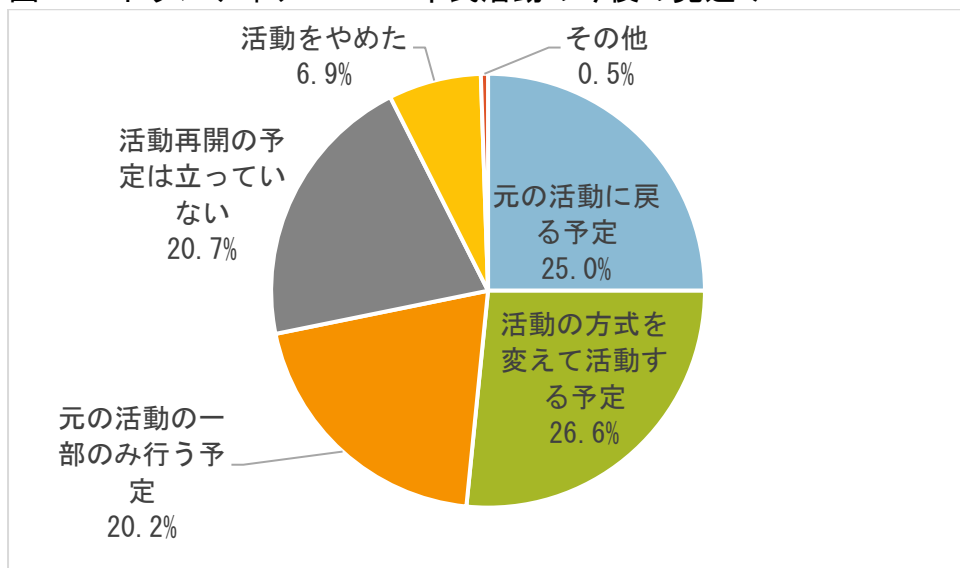
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど（まったく）活動が行われなくなったことがあなたの生活の満足度に与えた影響について尋ねたところ、「生活の満足度に影響を与えなかった」（49.5%）と「生活の満足度を下げた」（47.3%）、がそれぞれ約半数を占め、拮抗していた。（図15）

図15 ボランティア・NPO・市民活動が行われなくなったことが生活の満足度の与えた影響



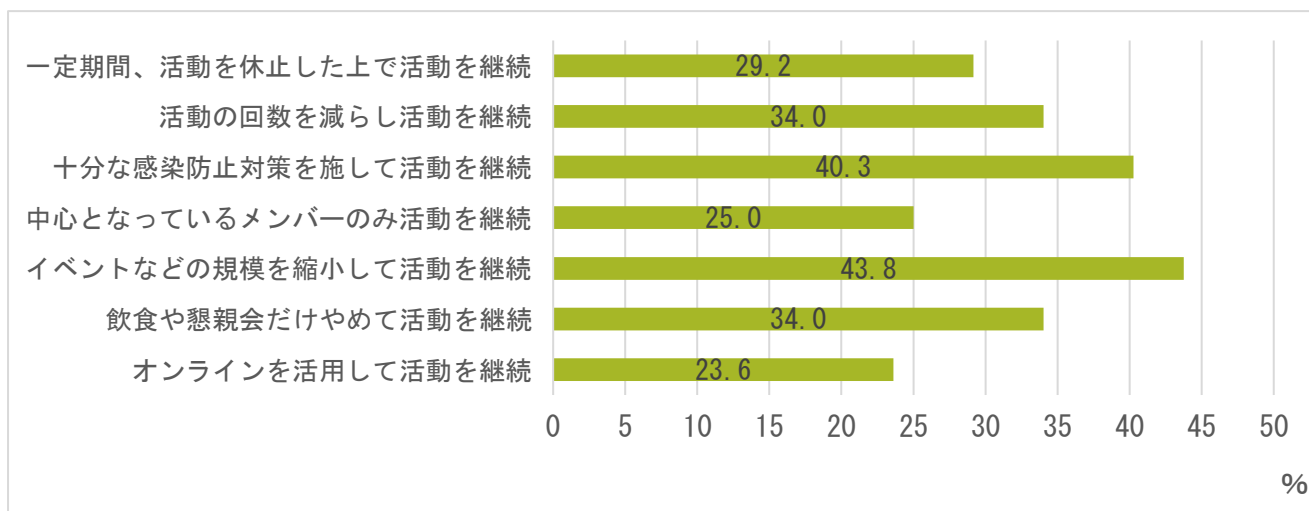
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、今後の活動の見込みを尋ねたところ、「活動の方式を変えて活動する予定」(26.6%)と「元の活動に戻る予定」(25.0%)がほぼ4分の1、「活動再開の予定は立っていない」(20.7%)と「元の活動の一部のみ行う予定」(20.2%)が約2割ずつ、「活動をやめた」(6.9%)で回答が分かれた。コロナ禍前にボランティア・NPO・市民活動に参加していた人の約半数が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなり、そのうちの約4分の1が参加していた活動の再開の予定が立っていない或いは活動をやめ、約2割が活動を縮小する予定であった。即ち、コロナ禍前よりボランティア・NPO・市民活動に参加していた人のうち、約13%は参加していたボランティア・NPO・市民活動の再開の予定は立っていない或いは活動をやめた人であること、約1割は参加していたボランティア・NPO・市民活動が縮小される予定であることがわかった。(図16)

図16 ボランティア・NPO・市民活動の今後の見込み



「影響を受けたが、何とか活動が継続された」と回答した人に、活動を継続する際に講じた措置を複数回答で尋ねたところ、「イベントなどの規模を縮小して活動を継続」(43.8%)が最多で、次いで、「十分な感染防止対策を施して活動を継続」(40.3%)、「活動の回数を減らし活動を継続」(34.0%)、「飲食や懇親会だけやめて活動を継続」(34.0%)が多かった。ボランティア・NPO・市民活動の継続のために様々な措置が並行して講じられていることがわかった。(図17)

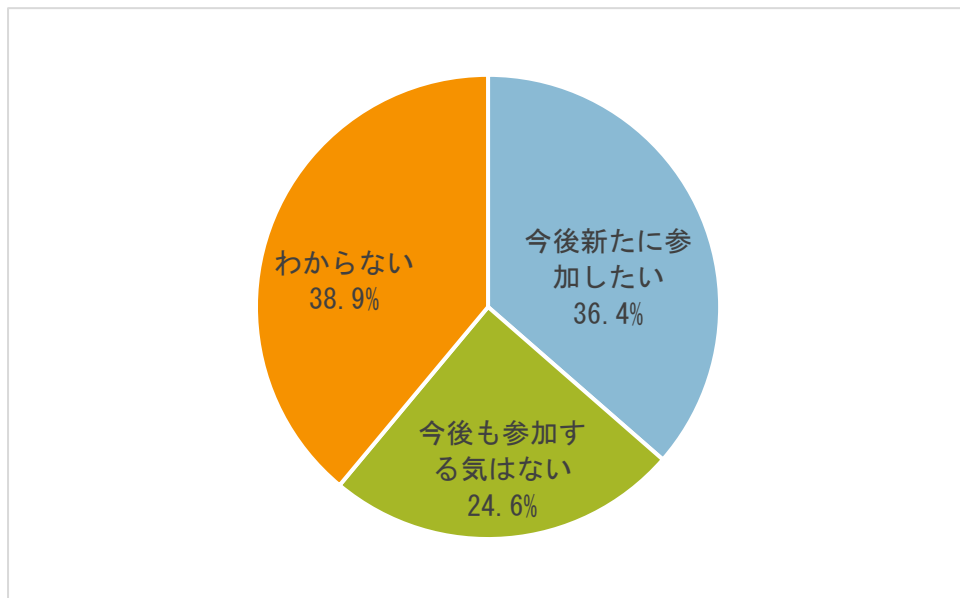
図17 ボランティア・NPO・市民活動の継続のために講じた措置（複数回答）



(3) コロナ禍前からボランティア・NPO・市民活動を行っていない人の今後の参加の希望

コロナ禍前からボランティア・NPO・市民活動を行っていない人に今後の参加の希望を尋ねたところ、「わからない」(38.9%)が最も多く、次に「今後新たに参加したい」(36.4%)が続き、「今後も参加する気はない」(24.6%)は約4分の1であった。(図18)

図18 コロナ禍前からボランティア・NPO・市民活動を行っていない人の今後の参加の希望

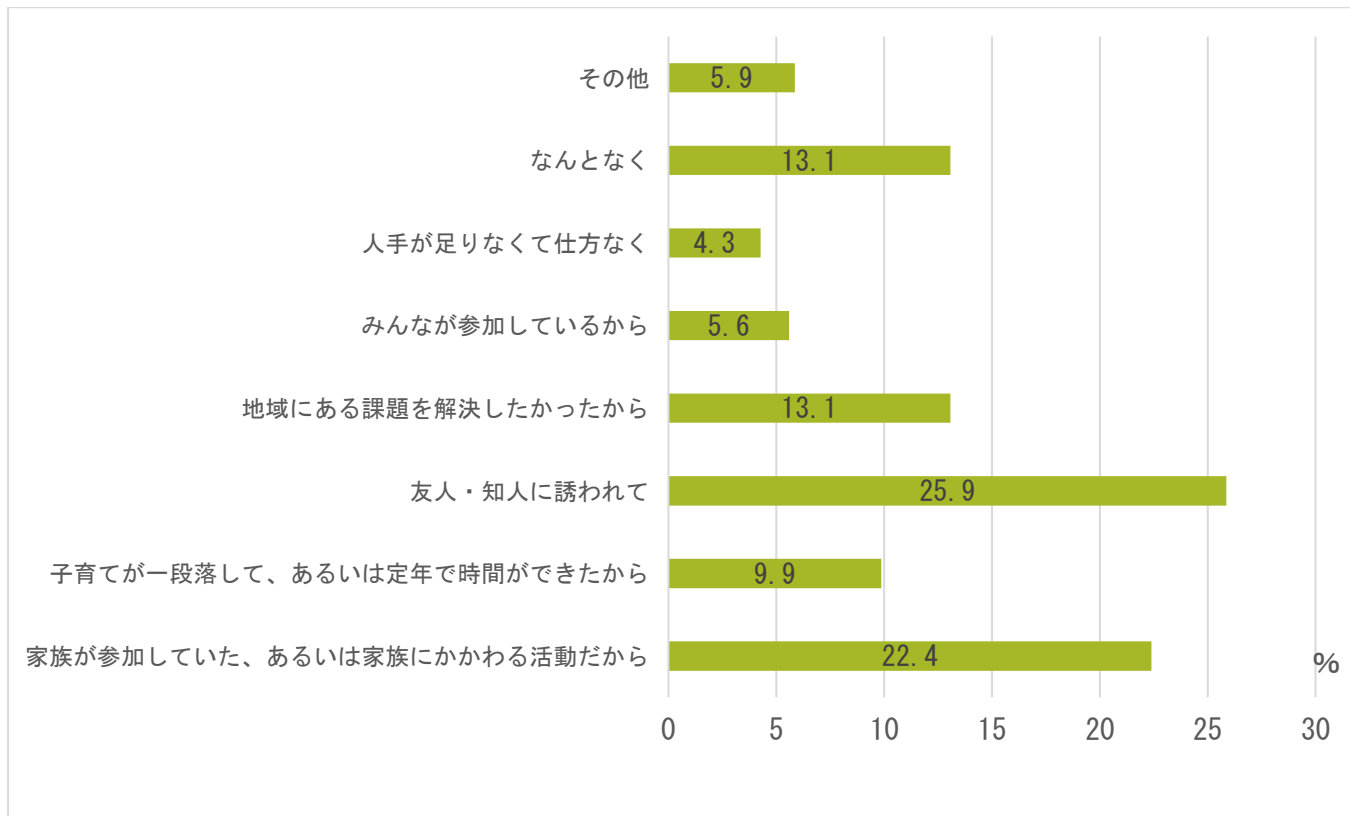


4. コロナ禍の下におけるスポーツ・趣味・娯楽活動

(1) スポーツ・趣味・娯楽活動に参加したきっかけ、参加頻度

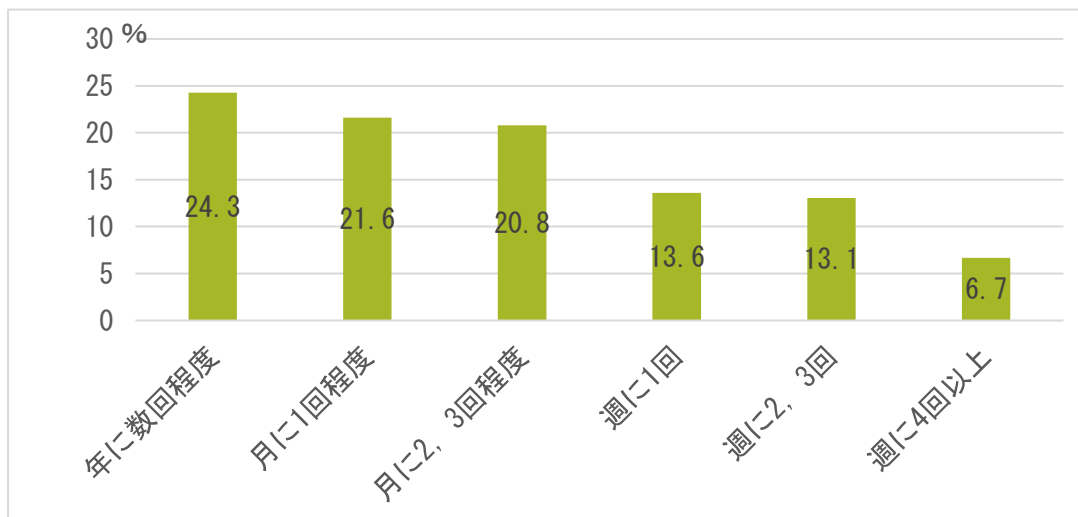
スポーツ・趣味・娯楽活動に参加したきっかけとして、最も当てはまるものを1つだけ選んでもらったところ、「友人・知人に誘われて」(25.9%)が最多で、次いで「家族が参加していた、或いは家族にかかわる活動だから」(22.4%)、「地域にある課題の解決に貢献したかったから」(13.1%)、「なんとなく」(13.1%)が続いた。(図19)

図19 スポーツ・趣味・娯楽活動に参加したきっかけ



コロナ禍前、スポーツ・趣味・娯楽活動に参加していた頻度は、「年に数回程度」(24.3%)、が最多で、次いで「月に1回程度」(21.6%)、「月に2、3回程度」(20.8%)が続いた。(図20)

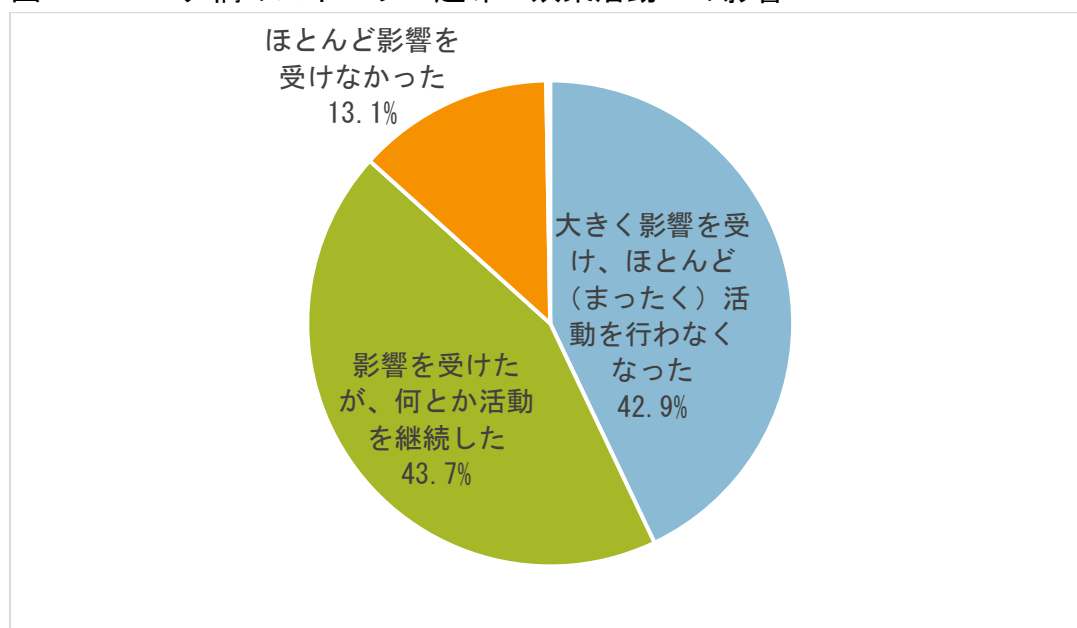
図20 コロナ禍前のスポーツ・趣味・娯楽活動の参加頻度



(2) スポーツ・趣味・娯楽活動へのコロナ禍の影響

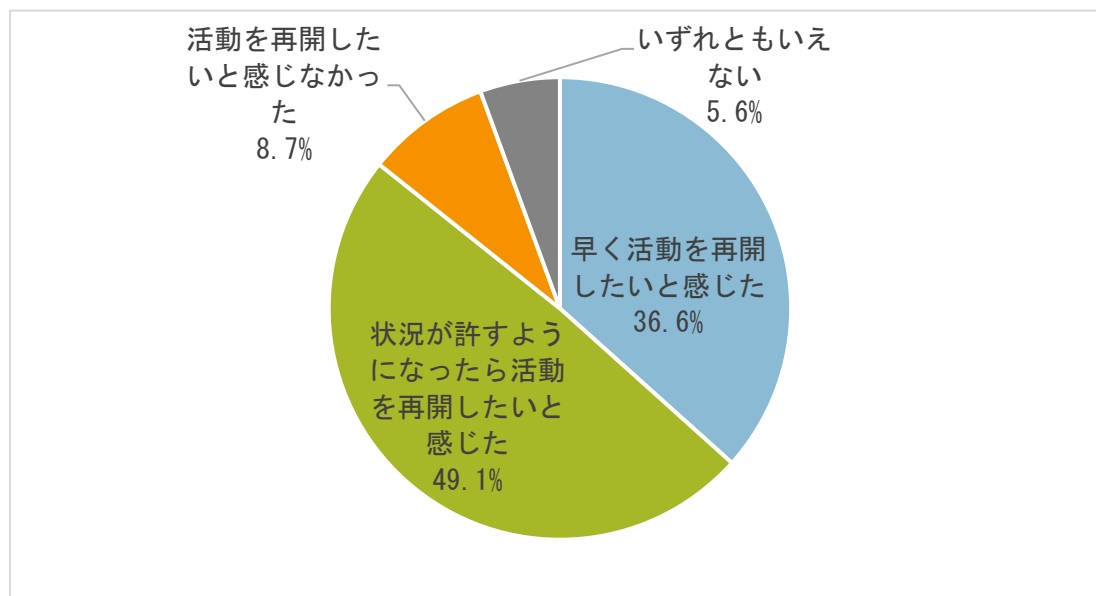
新型コロナウイルス感染症の拡大によって、スポーツ・趣味・娯楽活動は影響を受けたかという質問に対する回答として、「影響を受けたが、何とか活動が継続された」(43.7%)と「大きく影響を受け、ほとんど(まったく)活動が行われなくなった」(42.9%)が約4割で並んだ。「ほとんど影響を受けなかった」(13.1%)は1割超であった。コロナ禍前にスポーツ・趣味・娯楽活動に参加していた人の約9割がコロナ禍の影響を受け、そのうちの約半数が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなったことがわかった。(図21)

図21 コロナ禍のスポーツ・趣味・娯楽活動への影響



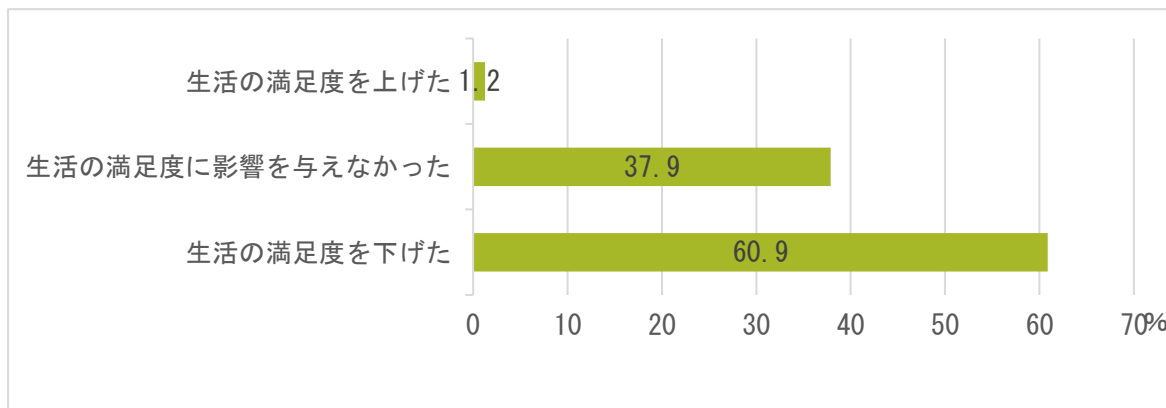
「大きく影響を受け、ほとんど(まったく)活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど活動が行われなくなったときに活動再開についてどのように感じたか尋ねたところ、「状況が許すようになったら活動を再開してほしいと感じた」(49.1%)が最も多く、次に、「早く活動を再開してほしいと感じた」(36.6%)が多く、「活動を再開してほしいと感じなかった」(8.7%)は1割以下であった。(図22)

図22 スポーツ・趣味・娯楽活動の再開に対する思い



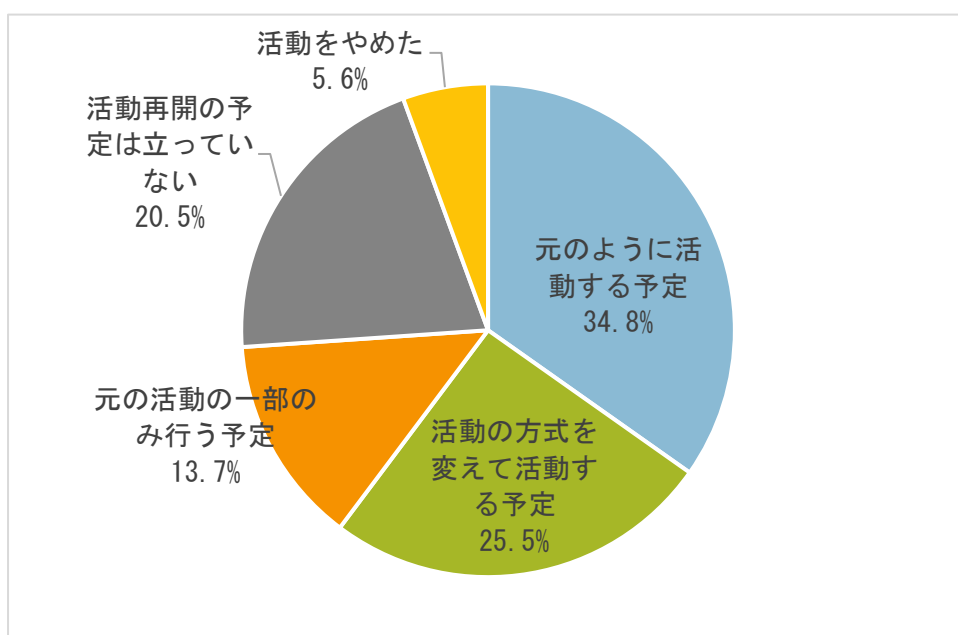
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、ほとんど（まったく）活動が行われなくなったことがあなたの生活の満足度に与えた影響について尋ねたところ、「生活の満足度を下げた」（60.9%）が6割以上と最も多く、次いで「生活の満足度に影響を与えなかった」（37.9%）が続いた。活動の停止により多くの人が「生活の満足度を下げた」ことがわかった。（図 23）

図 23 スポーツ・趣味・娯楽活動が行われなくなったことが生活の満足度の与えた影響



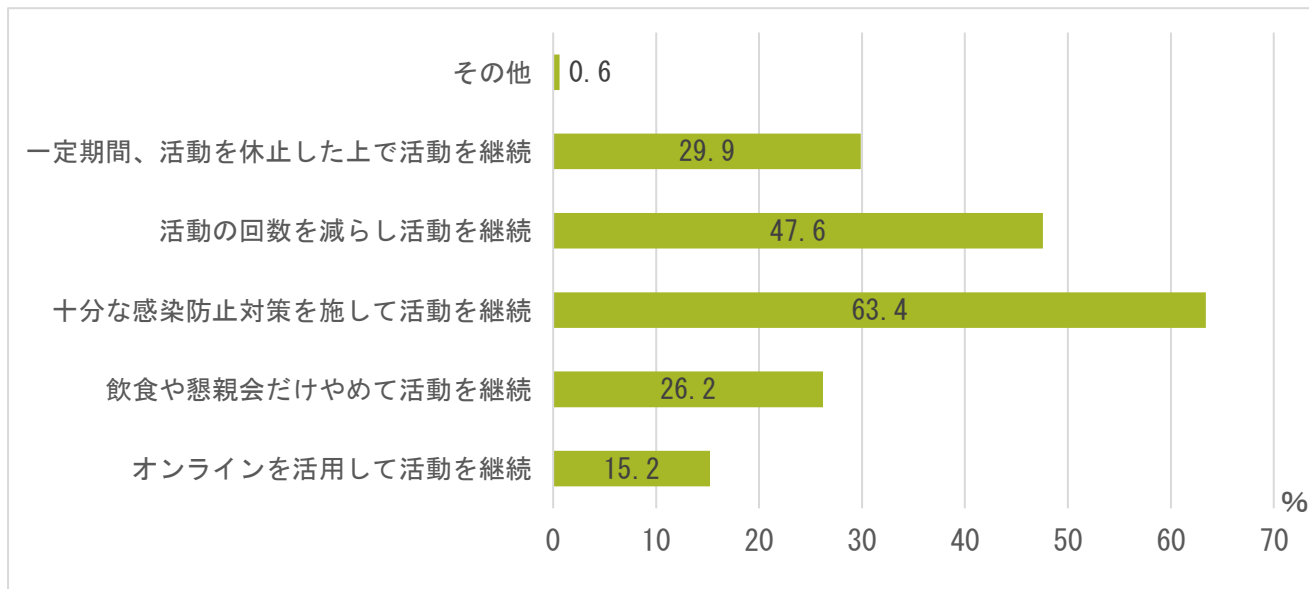
「大きく影響を受け、ほとんど（まったく）活動は行われなくなった」と回答した人に、今後の活動の見込みを尋ねたところ、「元のように活動する予定」（34.8%）が最多で、次いで「活動の方式を変えて活動する予定」（25.5%）、「活動再開の予定は立っていない」（20.5%）、「元の活動の一部のみを行う予定」（13.7%）、「活動をやめた」（5.6%）が続いた。コロナ禍前にスポーツ・趣味・娯楽活動に参加していた人の約4割が、参加していた活動がほとんど或いはまったく行われなくなり、そのうちの約4分の1が参加していた活動の再開の予定が立っていない或いは活動をやめ、約14%が活動を縮小する予定であった。即ち、コロナ禍前よりスポーツ・趣味・娯楽活動に参加していた人のうち、約1割は参加していたスポーツ・趣味・娯楽活動の再開の予定は立っていない或いは活動をやめた人であること、約6%は参加していたスポーツ・趣味・娯楽活動が縮小される予定であることがわかった。（図 24）

図 24 スポーツ・趣味・娯楽活動の今後の見込み



「影響を受けたが、何とか活動が継続された」と回答した人に、活動を継続する際に講じた措置を複数回答で尋ねたところ、「十分な感染防止対策を施して活動を継続」(63.4%)が最も多く、次いで「活動の回数を減らし活動を継続」(47.6%)、「一定期間、活動を休止した上で活動を継続」(29.9%)、「飲食や懇親会だけやめて活動を継続」(26.2%)が多かった。(図 25)

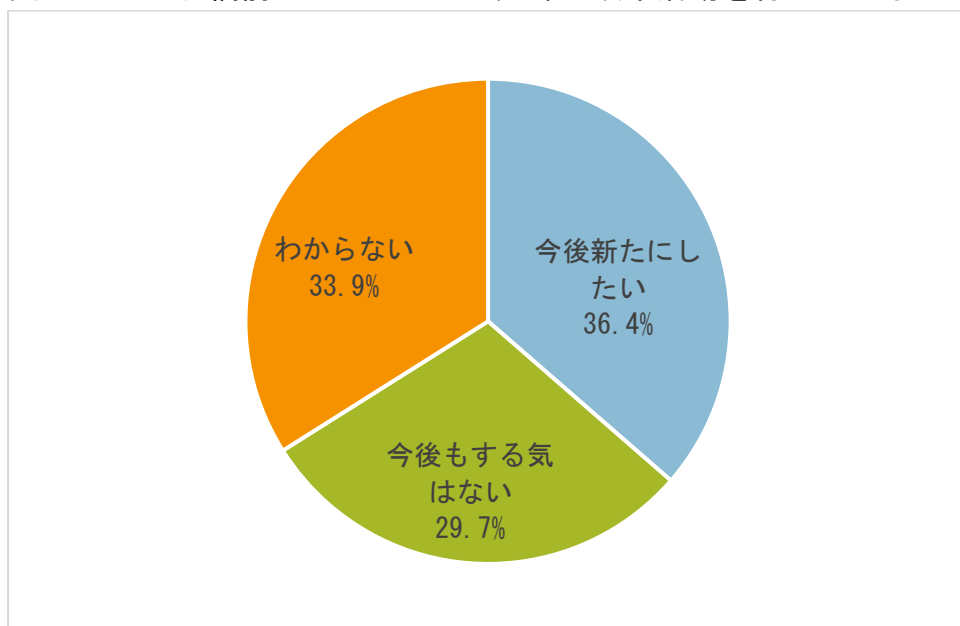
図 25 スポーツ・趣味・娯楽活動の継続のために講じた措置（複数回答）



(3) コロナ禍前からスポーツ・趣味・娯楽活動を行っていない人の今後の参加の希望

コロナ禍前からスポーツ・趣味・娯楽活動を行っていない人に今後の参加の希望を尋ねたところ、「今後新たに参加したい」(36.4%)、「わからない」(33.9%)、「今後も参加する気はない」(29.7%)の3つに回答がほぼ三分された。(図 26)

図 26 コロナ禍前からスポーツ・趣味・娯楽活動を行っていない人の今後の参加の希望



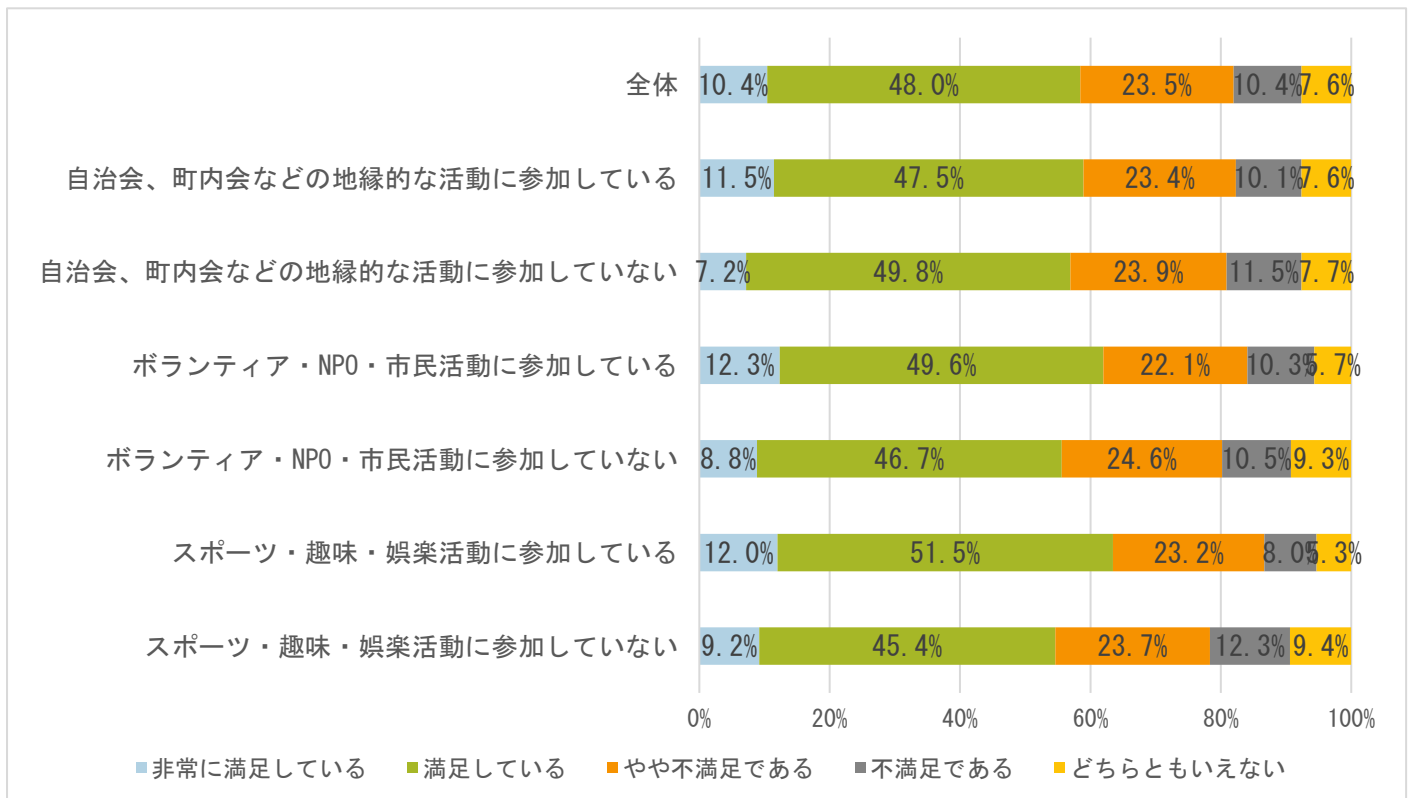
5. 生活満足度と居住継続希望

(1) 生活満足度と活動への参加

現在の自分の生活に満足しているか尋ねたところ、「満足している」(48.0%)が半数近くと最も多く、次いで、「やや不満足である」(23.5%)が続き、「非常に満足している」(10.4%)と「不満足である」(10.4%)はそれぞれ約1割となった。

自治会、町内会などの地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動、スポーツ・趣味・娯楽活動に参加しているか否かと生活満足度との関係を見ると、いずれの活動についても、参加している人(各59.0%、61.9%、63.5%)の方が参加していない人(各57.0%、55.5%、54.6%)よりも「非常に満足している」と「満足している」の割合の和が多いことがわかった。特に、スポーツ・趣味・娯楽活動に参加している人は、参加していない人に比べ、「非常に満足している」と「満足している」の割合の和が約1割程度多かった。(図27)

図27 生活の満足度と活動への参加の有無



(2) 居住継続希望と活動への参加

今後も現在住んでいる地域に住み続けたいかと尋ねたところ、「住み続けたい」(66.8%)が約7割で最多、「どちらでもいい」(25.1%)、「地域外に引っ越ししたい」(8.1%)が続いた。

自治会、町内会などの地縁的な活動、ボランティア・NPO・市民活動、スポーツ・趣味・娯楽活動に参加しているか否かと居住継続希望との関係を見ると、自治会、町内会などの地縁的な活動とスポーツ・趣味・娯楽活動については、参加している人(各71.3%、68.0%)の方が参加していない人(各52.6%、65.8%)よりも住み続けたい割合が多かった。特に、自治会、町内会などの地縁的な活動は、住み続けたい割合が参加している人が参加していない人よりも約2割多かった。本調査の結果から明らかになった、コロナ禍の影響による地縁的な活動の停滞が地域への定住にも影響を及ぼすおそれがある。ボランティア・NPO・市民活動は、逆に、住み続けたい割合が参加していない人(71.4%)の方が参加している人(61.2%)よりも約1割多かった。(図28)

図28 居住継続希望と活動への参加の有無

